

日本リスクマネジメント学会関東部会 (シンポジウム)

主催: 日本リスクマネジメント学会 日本学術会議第一部経営学委員会

シンポジウム リスクマネジメント研究の過去・現在・未来

わが国におけるリスクマネジメント研究の起源は、1978年に創立された日本リスクマネジメント学会の歴史に遡る。本シンポジウムでは、保険管理から心の危機管理に至る、わが国におけるリスクマネジメント研究の35年を振り返る。まず、これまで構築されてきた主たるリスクマネジメント研究の概要を各専門家より発表頂く。次にディスカッションを通じて現代的なリスクマネジメント研究の課題を明らかにする。

時: 2013年6月28日(金) 13:30-16:30

於: 日本学術会議講堂 東京メトロ千代田線「乃木坂駅」下車5番出口より1分

司会・コーディネータ:

亀井克之(関西大学 社会安全学部教授 日本リスクマネジメント学会副理事長)

問題提起 13:30~13:50

「リスクマネジメント研究の35年 —保険管理から心の危機管理まで—」

報告者:

上田和勇（専修大学 教授 日本リスクマネジメント学会理事長）

「現代的リスクマネジメント論の視点から」 14:00～14:20

川本明人（日本学術会議第一部会員、広島修道大学 教授）

「経済学の視点から」 14:20～14:40

奈良由美子（放送大学 教授）

「生活科学の視点から」 14:40～15:00

菅原好秀（東北福祉大学 教授）

「社会福祉学の視点から」 15:00～15:20

白田佳子（日本学術会議第一部会員、筑波大学 教授）

「経営学の視点から」 15:20～15:40

休憩 15:40～15:50

パネルディスカッション 15:50～16:45

入場無料

日本リスクマネジメント学会関東部会

創立35周年記念シンポジウムを開催

RM研究の過去・現在・未来

学際的な視点で今後の展望を議論

日本リスクマネジメント学会関東部会は6月28日、東京都港区の日本学術会議講堂で、学会創立35周年を記念した公開シンポジウム「リスクマネジメント研究の過去・現在・未来」を開催した。1978年の創立以来、35年間わたる日本の危機管理研究について、各界の専門家が振り返り、パネルディスカッションを通じて現在の課題について論じた。



亀井氏

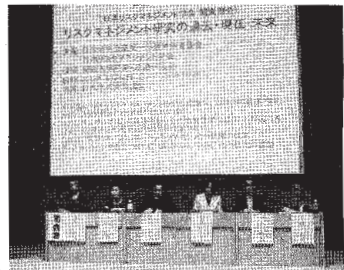


上田氏

基調講演した関西大学社会学部教授の亀井氏は「学際的な視点で今後の展望を議論」と題して、物や物と人との関係性に着目し、リスク管理の重要性を指摘した。また、物や物と人との関係性に着目し、リスク管理の重要性を指摘した。また、物や物と人との関係性に着目し、リスク管理の重要性を指摘した。

経営者のリスクマネジメント理解が重要

「自分語り、自らのリスクマネジメントが必須」と上田氏は、経営者のリスクマネジメント理解の重要性を指摘した。



分野の壁を越えて意見を交換

「自分語り、自らのリスクマネジメントが必須」と上田氏は、経営者のリスクマネジメント理解の重要性を指摘した。

「自分語り、自らのリスクマネジメントが必須」と上田氏は、経営者のリスクマネジメント理解の重要性を指摘した。

「自分語り、自らのリスクマネジメントが必須」と上田氏は、経営者のリスクマネジメント理解の重要性を指摘した。

上田氏は、経営者のリスクマネジメント理解の重要性を指摘した。また、物や物と人との関係性に着目し、リスク管理の重要性を指摘した。また、物や物と人との関係性に着目し、リスク管理の重要性を指摘した。

